

ユーノス・ロードスター こんな“足”が欲しかった



現在、書店で発売中のゴールドCARトップ「ユーノス・ロードスター」(発行・株交通タイムス社 ¥1,500)。ドレスアップからチューニングまで、ロードスターに関するすべての情報が満載されている。この雑誌の中で編集部が提案するロードスターとしてビルトアップされたのがコイツだ。ボディメイクの方は先月のCRでも紹介したが、今回T1サーキットに持ち込んでフットワークをメインにチェックしてみることにした。ドライバー＆レポーターはおなじみF3ドライバーの金久憲司だ。

このロードスターに乗ってまず最初に感じたのは、非常に乗ってて楽しいクルマだということだ。何が楽しいかというと、タイムなどは関係なしにコントローラブルで手足のように操れる楽しみがある。

確かにエンジンはノーマルでぜんぜん速くない。むしろ3速の登りコーナーではクルマをゆすぶりたくなるほどだ。しかし、

スーパートラップマフラーから聞こえてくるサウンドは心地良く、レスポンスもいい。セールスポイントの足回り及びブレーキは非常にバランスが良く“ワインディング、ストリートを軽快に走る”というレベルではかなりの仕上がりといえる。

さて具体的な走行フィールだが、メインストレートを5速全開でカッ飛んでくる。

1コーナー手前約70m位でフルブレーキングし5→4→3とシフトダウン。ブレーキをゆるめながら、ややオーバースピード気味にスッとステアリングを切り込んでいくと軽快にリアが振り出す。すかさずここでアクセルON。リアは安定し今度はスムーズなパワードリフトとなる。ダブルヘアピンの入口でも3速全開からフルブレーキン